

特集

# 全米30BPを完全制

# HTB福田太郎アナ メジャーと北広島B

# 覇した が語る Pの魅力



## 福田 太郎

《プロフィール》ふくだ たろう  
1991年、佐賀県鳥栖市出身。大学まで野球に打ち込む。早稲田大学スポーツ科学部卒。HTB入社後は報道のフィールドキャスターとして活動し、2016年には第15回ANNアナウンサー賞最優秀新人賞を受賞。2017年からはスポーツ担当となり、ファイターズの実況・リポーターも務めていたが、2022年春から休職し、1シーズンを通してメジャーリーグを学んだ。明るく元気なキャラで、同僚の大野恵アナとコンビを組みM-1グランプリに出演したことも。

新球場エスコンフィールドHOKKAIDOでのシーズン開幕が間近に迫った北海道日本ハムファイターズ。今年は道民の野球熱がいつそう高まりそうだが、野球観戦の楽しさは、選手の活躍だけではなく、感動と興奮を伝えるアナウンサーの熱量に拠る部分も大きい。大学まで野球に打ち込んだ北海道テレビ放送（HTB）の福田太郎アナウンサー（32）は、メジャーリーグの要素を随所に盛り込んだ新球場やスポーツエンタメの魅力をしつかりと伝えるための勉強期間として、1年間の休職を決断。単身渡米してMLB全30BP（ボールパーク）を完全制覇した熱血漢だ。メジャー留学によって成長を遂げた福田さんに、新球場に寄せる思いなどをうかがった。

（構成／フリーライター・内海達志）

## 30歳を機に大胆チャレンジ

——メジャーリーグに魅かれ、ついには渡米まで決断した経緯をお聞かせください。

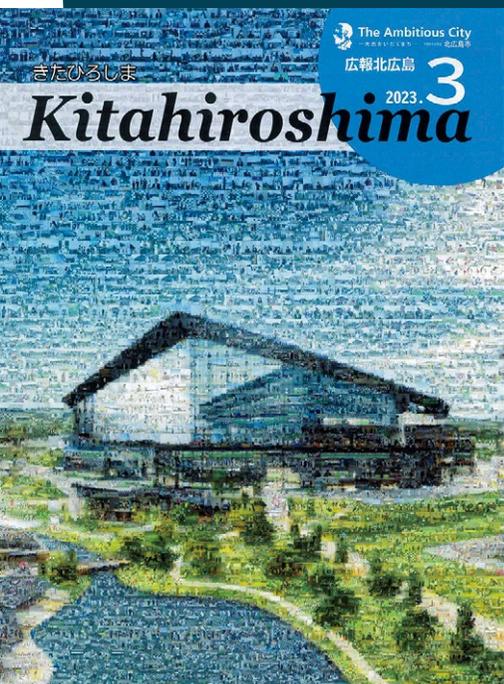
話は2017年に遡ります。報道のフィールドキャスターだった頃に北広島でのBP構想が発表され、球団事務所で取材をさせていただく機会があったのですが、BPの青写真に接し、「こんなはず

——「ごいものが北海道にできるのか」とワクワクした気持ちになりました。私自身、大学まで野球一筋で、プロになる夢を持っていました。挫折し、それならば野球の実況がしたいとスポーツアナウンサーを目指したのです。大谷翔平選手の北海道日本ハムファイターズラストシーズンとな

ったこの年に、アナウンス部とスポーツ部の兼務となり、大谷選手のアリゾナキャンプを取材することができました。それ以降、メジャーリーグが自分の中で切っても切れない存在となっていく、夏休みを利用しては、メジャーのBPを回る生活を続けました。

——休職はまだ先の話ですね。

2018年からは念願だった実況やリポーターの仕事も任せていただくことになったのですが、新型コロナウイルスの流行で楽しみにしていたBPの取材も思うようにできない我慢が続きました。「自分の感情に素直になりたい」との思いもあって、それがのちの渡米



Fビレッジ開業特集  
思いをつむぐ、未来へつなぐ

▲大量の写真によるモザイクアートで構成したBP（広報北広島3月号表紙）



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)